けた騎士たちは十六世紀のいでたち。毎月数回行われる観光客向けの行事だが、目的はそれだけではない。

参加する市民約六十人のリーダー格で六十歳のフィリップ・ミッツィが言った。「再現することで、この国のたどった歴史を追体験する狙いもある。住民もイス

欧州を守

ここが歴史に残る舞台となったのは、トルコ軍艦隊の猛攻を受けた一五六五年の大包囲戦だ。数カ月にわたる死闘の後、騎士団がトルコ軍を撃退。「イスラム教の進撃からキリスト教の欧州を守ったとりで」として名声を高めた。

こうした戦史を繰り返し

ティン・モラナにこんな疑問をぶつけると、一笑に付された。「いやいや、今はわれわれも欧州連合（EU）の一員。イスラム国家でさえEUに加わるかもしれない時代ですよ」

ただ「アイデンティティーを支えるのは歴史だ」と説明する言葉に、欧州防衛

徒であることの確認」だ。それも「カトリック」である。

だが、人々の信仰生活は騎士団の時代よりはるかに長い歴史空間に息づいている。そんなことを思い知らされたのは、「歴史的にはもっと大事な出来事があった」と信者のひとりに聞いて近くの教会を訪れた時

ト遠征に向かうナポレオンに島を追われていった。

憲法は国民の九割以上が帰依する「ローマ・カトリック」を国教と定める。中心部にはひときわ大きな聖ヨハネ大聖堂がそびえ、周囲を圧倒する。華麗な装飾は欧州諸侯の寄進を受けた

航海中、船が難破しマルタに漂着、この地で布教した。西暦六〇年のこととされる。それを記念した教会だ。

◆不法難民急増

「その時からわれわれはキリスト教徒なんです。新約聖書にも書かれている」と教会で聞かされた。言わ

だが「マルタには二重性という特徴もある」と付け加えた。それはキリスト教徒でありながら、系統的にはアラビア語と同じセム系の言葉を使っていることだ。住民が日常的に使っている土着のマルタ語だ。アラブの影響どころか、紀元前八―七世紀に地中海世界

ビル屋上に自然空間

庭園など住民に好評

東京のビル屋上に、自然が増えている。生き物が暮らす環境を再現したビオトープや庭園が廃校やデパートに作られ銀座の真ん中で今春から養蜂も始まった。

廃校となった渋谷区の旧原宿中学校の屋上。かつての二十五㍍プールはハスがつぼみをつけ、ヨシやガマの茂るビオトープに生まれ変わっている。プール隣の元バスケットコートは一般の人が使用できる菜園で、ナスやトマト、枝豆などが育つ。手入れにきた主婦飯塚広美さん(50)は「土や緑に触れるのは気持ちがいい。夏の夜はホタルがきれいですよ」と話す。取れたての野菜を使った献立は家族にも大好評だ。

品川や渋谷の区庁舎屋上も緑化されデパートにも屋上庭園が増えている。昨年開園した日本橋高島屋のほか新宿の伊勢丹本店でも六月、屋上庭園「アイ・ガーデン」がオープン。約二千平方㍍の回遊庭園にはキンカンやアジサイなど約二百種類が植えられている。妻の買い物を待っていた世田谷区の無職男性(68)は「こういう空間がもっと増えるといい。癒やされるね」。

銀座三丁目の紙パルプ会館ではこの春、屋上で約十万匹のミツバチが飼育された。街路樹や浜離宮、皇居のソメイヨシノやユリノキなどから百五十㌔以上のみつが採れた。「養蜂で樹木が受粉して実がなり、小鳥が来るなど、街で生態系に気付くようになった」と銀座ハチミツ」は、洋菓子に使われて松屋銀座などで販売されるブランドになった。田中さんは「都会で長い間排除されていた自然が、今や新たな価値を生んでいますね」と話している。

ビオトープになっている旧原宿中学校の屋上プール。周りはビルだが、ここはのんびりした雰囲気だ＝東京都渋谷区

あの人この人

来季は勝負の年

「納得いくプレーができたが、ケガが多くて満足に乗りきれなかった」

日本人で初めて北米プロアイスホッケーリーグ（NHL）のキングズと契約したGK福藤豊さん(23)がシーズンを終え北海道釧路市に戻った。

NHLでは出場機会がなかったが、マイナーリーグのAHLで2試合出